

実務メール文から、コラム・随筆・エッセイの書き方までを解説する

## やさしい文章教室がスタート！

受講者 34 名 (男 15・女 19 / 当日出席者 27) の文章教室がスタートしました。会場は、みずほ台コミュニティセンター。第 1 回の講義は、およそ、次のような内容です。まず、永杉徹夫先生は、エッセイ (文章を書くこと) の効用について、独自の見解を開陳されました。

### 1. エッセイを書くことによって得られる効能 (効き目) はなにか？

永杉先生は「エッセイを書くことによって得られる効能 (効き目)」として、次の十項目を掲げています。

- ① ものを良く見、聴くようになる
- ② 自分をかざらなくなる、裸になれる
- ③ 他の人 (プロ、アマを問わず) の文を読む楽しさが倍加する
- ④ 人間がより優しく、厳しくなる
- ⑤ 話すことが上手になる
- ⑥ ふくれた腹がへこみ、たった腹が横になる
- ⑦ 日々が平和になり、あせらなくなる
- ⑧ 人間がより濃くなり、長生きしたくなる
- ⑨ 老年がマイナスに思えなくなる
- ⑩ 童心にかえり、真の自分を発見することができる



### 2. なぜ「書けない」「書くことが苦手」なの……その対策は？

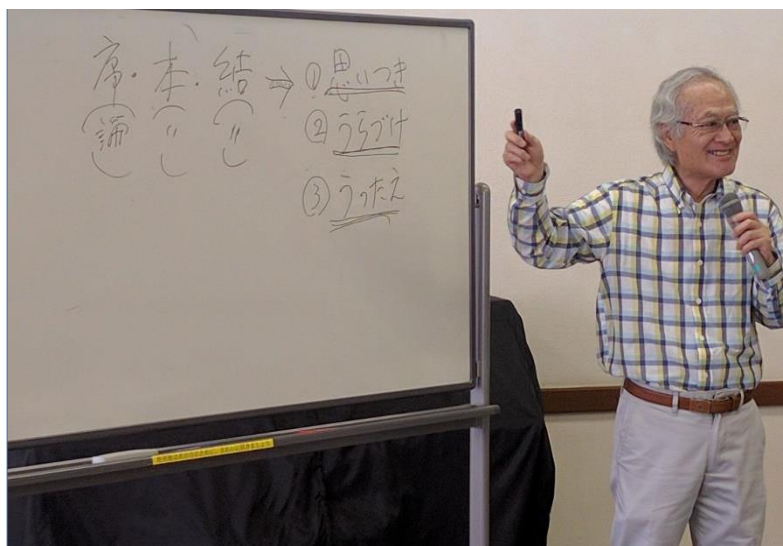
- (一) 恥も外聞も捨てて、だれにも見せないものとして書いてみる。日記をつけるつもりで書いてみるのも一策。

(二) だれか親しい人に話すつもりで書いてみる。そのときの文体は話し言葉でよい。後で文章体にすればよい。(三) 思いつくままにメモしていく。箇条書きにして余白を残し、あとで肉付けするつもりで気軽に思い浮かぶままに書き記していく (メモ書き文章術は後章でくわしくふれます)。

(四) とにかく、書く環境をこしらえ、そこに自分を置くこと。パソコンならキーを押すだけの状態にして、その前に座ることです。

(五) 感興がわかかないと書けない人は、それをわかす工夫を。音楽を聴く、映画を観る、本を読む、などは効果的な方法です。なかにはアルコールの助けを借りる人もいます。

何がなんでも「書くぞ」という意志さえあれば、これらにふけてしまうことはないはずです。



(六) とにかく書けるところから、あるいは書きたいところから少しずつ書き始めてみることです。  
(「文章を書く基本」より)

### 3. さっそく頂きました、作文のお題 (課題) !!

Oh, my God !

課 題 — 「風 (かぜ)」

(ヒント : 風景・肩で風を切る・教師風・親分風もタイトルになる)

原稿枚数 — 400字詰め原稿用紙2枚 (800字) 程度

(パソコン使用可 — 原稿用紙スタイル / 横書きでもよい)

提出日 — 第2回授業日 (6月26日) に提出